

# 神経病態解析学

## セミナー シリーズ

Awajiroの  
わがままセミナー

本セミナーは、HBS研究部・神経病態解析学分野（准教授・笠原二郎）が不定期に主催するセミナーシリーズで、聴衆（特に若者）への刺激とブレインストーミングを目的に、ジャンルを問わず各界の最前線でユニークな活躍をされている方々をお招きし、お話し頂きます。研究部の多くの学部生・大学院生・教職員の参加をお待ちしております。

連絡先：笠原 二郎 awajiro@tokushima-u.ac.jp  
Tel&Fax: 088-633-7278 (学内 6256)

## シリーズ第13回 演者：大野 智 博士

<http://apital.asahi.com/article/kiku/index.html>

・帝京大学 医学部 臨床研究医学講座 特任講師 ・早稲田大学 先端科学・健康医療融合研究機構 客員准教授  
・東京女子医科大学 消化器外科 非常勤講師

演題：健康・医療情報の見極め方 ～「がんに効く！」の本当の意味～

開催日時：2013年6月14日（金） 17:00 – 18:30

開催場所：薬学部 2F 第1講義室（スタジオプラザ 2F）

TPN 研修会、薬物治療学3（7/22の振替）を兼ねます。薬学部能動学習単位1ポイント付与。

朝日新聞の医療サイト・アピタルにて「これって効きますか？」を好評連載中の大野智博士が、本セミナー講師を務めて下さいます。大野博士は島根医科大学（現島根大学医学部）ご出身の医師で、腫瘍医学・緩和医療・補完代替医療などに精通され、学会のガイドライン作成にも携わっておられます。

### 講演要旨

近年、患者の治療選択における自己決定意識の高まりに加えインターネットの普及によって個人による健康・医療情報へのアクセスが容易になったことから、我が国において補完代替医療

※（Complementary and Alternative Medicine; CAM）の利用者が急速に増加している。

厚生労働省がん研究助成金研究班の調査によると我が国のがん患者の約45%がCAMを利用していることが報告された。また、我が国に特徴的な点としてCAMの利用内容において健康食品の利用頻度が非常に高い（95%）ことが明らかとなった。さらに、この調査では、およそ60%の患者が十分な情報を得ることもなく、また主治医に相談することもなく様々なCAMを利用していることも明らかとなった。このような現状を踏まえ、医療従事者と患者は、CAMの利用について積極的にコミュニケーションを図る必要に迫られている。しかし、医療機関からの適切な情報提供は殆ど行われておらず、患者やその家族は、正確な情報を得ることなく不安を抱えたままCAMを利用している実態があり、多くの課題が残されている。

今回の講演では、以下のトピックについて概説する。

1. 補完代替医療とは？（がん医療現場における現状）
2. 補完代替医療の問題点
3. どのように向き合うか？（「科学的根拠に基づいた医療」再考）

※補完代替医療（CAM）の定義

現段階では、通常医療と見なされていない、様々な医学・健康管理システム、施術、生成物質など

（出典：米国国立補完代替医療センター）